

## 南アフリカ為替週報

2023年10月19日 | みずほ銀行欧州資金部

&lt;過去1週間の動き&gt; (10月12日～10月18日)

USD/ZAR: 18.6945～19.0814

ZAR/JPY: 7.85～8.00(参照値)

過去1週間の南ア・ランド相場は対ドルで約1%反落。先々週には対ドルで3%超の大幅反発となっていた。主に米国での底堅い経済・インフレ指標を受けた米長期金利の上昇とグローバルなドル高の裏返しという側面が大きく、対円、対ユーロでは底堅く推移している。中東情勢の緊迫化は、(1)市場のリスク心理悪化に伴うドルへの逃避需要、(2)原油の供給懸念に伴う原油価格の上昇が、資源国ながらエネルギーは輸入に依存している南アの経常収支悪化につながるリスク、の主に2つの経路からランドの下押し要因となる。これまでのところ、戦禍が中東全体に拡大するという見方は少ないように思われ、市場の反応も総じて冷静なものとなっているが、引き続きパレスチナ情勢には警戒が必要であろう。

経済指標では、10月18日に9月分の消費者物価指数(CPI)が発表された。結果は前年同月比+5.4%と8月分の同+4.8%から加速し、市場予想には合致した。インフレ再加速はほぼエネルギー価格の上昇で説明できる。国際価格の上昇と、ランド安に伴う輸入価格の上昇の両方の要因が影響している。短期金利市場では引き続き南アフリカ準備銀行(SARB)による25bpの追加利上げの可能性が約60%の確率で織り込まれている。基本的にエネルギー価格の上昇という外部要因によるインフレ再加速であれば、政策対応を行わないケースが先進国中銀では多いが、通貨の安定を維持するための追加利上げの可能性が意識されている格好だ。

中東情勢の影響に改めて焦点をあてると、先週は南アのバンドール国際関係・協力相(外相)がパレスチナ自治区ガザを実効支配するイスラム組織ハマスの最高指導者イスマイル・ハニヤ氏と電話会談を行い、その場でバンドール外相はハマスが10月7日にイスラエルに対して行った攻撃への共感と支持を表明した、とハマス側が主張し、南ア側が否定するという場面があった。バンドール氏は電話会談を認めつつも、イスラエルの市民の殺害を支持することは決してない、とした。また、ラマポーザ大統領はイスラエルとパレスチナの2国間共存を支持する立場は変わらない、としている。

&lt;過去1週間に発表された主要経済指標等&gt;

月日	GMT	指標	期間	予想*	実績	前回
10/12	12:00	工業生産(前年比)	8月	2.3%	1.6%	2.2%
10/18	12:00	小売売上高(前年比)	8月	-1.2%	-0.5%	-1.0%
	09:00	CPI(前年比)	9月	5.4%	5.4%	4.8%
	08:00	コアCPI(前年比)	9月	4.7%	4.5%	4.8%

(\*予想はブルームバーグ社予想中心値)

&lt;向こう1週間の見通し&gt; (10月19日～10月25日)

USD/ZAR: 18.60～20.00

ZAR/JPY: 7.10～8.20

今後1週間のランド相場は引き続き、外部環境の動向に敏感な展開が続くだろう。中東情勢の緊迫化に伴う原油価格の上昇リスク、米金利の動向、さらに中国の景気対策への期待、と南アを取り巻く環境が大きく変動する可能性があるためだ。もっとも、このところは相関係数を計算すると圧倒的に米金利の南アランドへの影響が大きいという結果となる。米10年債利回りは5%を伺う勢いとなっており、リスク資産全体に下落圧力が買っている。また、中東情勢の緊迫化に伴う原油価格の上昇も、本来、インフレ期待を押し上げ、米長期金利の上昇要因となる点に留意が必要となろう。

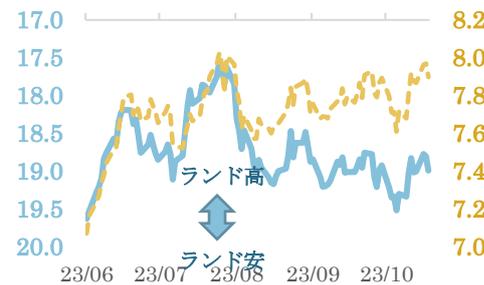
&lt;向こう1週間に発表予定の主要経済指標等&gt;

特になし

## 南ア・ランドの推移

実線:対ドルレート(左軸、逆目盛)

点線:対円レート(右軸)



## 消費者物価指数(CPI)

実線:ヘッドライン

点線:コア

(前年比%)

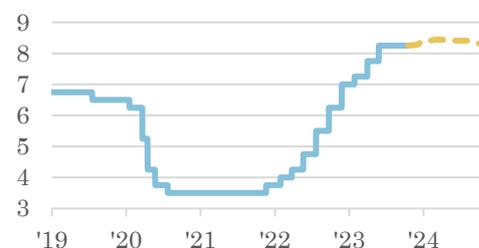


## 政策金利の推移

実線:実績

点線:市場の織り込み(※)

(% )



※市場の織り込みは3か月JIBORのフォワード契約から計算。2023年10月18日時点。

(資料:SARB、南アフリカ統計局、ブルームバーグ)

&lt;文責&gt;

欧州資金部

シニア為替ストラテジスト

中島 将行

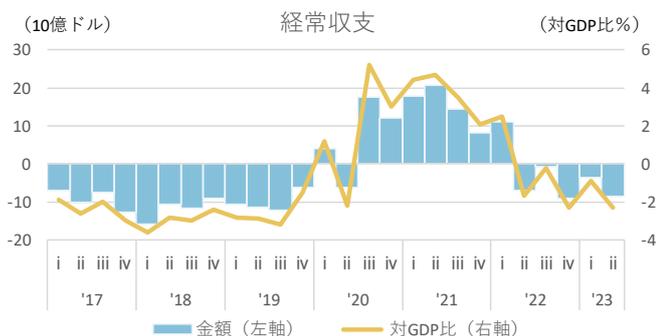
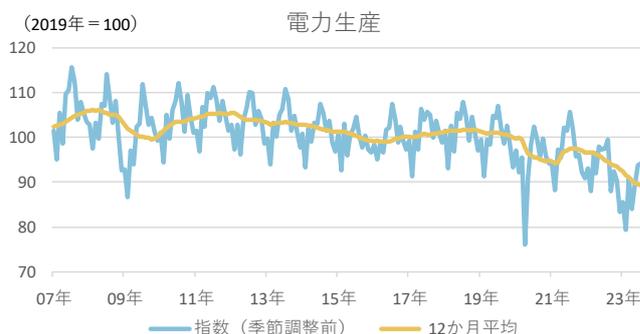
[masayuki.nakajima@mhcb.co.uk](mailto:masayuki.nakajima@mhcb.co.uk)

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。ここに記載された内容は事前連絡なしに変更されることもあります。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。また、当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず無断で引用または複製することを禁じます。

## 南アフリカ為替週報

2023年10月19日 | みずほ銀行欧州資金部

## ＜主要経済指標の推移＞



- \* 1 : BERサーベイは南アフリカ経済調査局 (Bureau for Economic Research) による四半期ごとの調査。  
経済アナリストや企業などが調査対象となっている。  
ブレイクイーブンインフレ率は物価連動国債から算出される、市場が推測する期待インフレ率。
- \* 2 : 月次データ。ただし、2023年10月は1日から17日までの累計値。

(資料：南アフリカ準備銀行/南アフリカ統計局/南アフリカ経済調査局/ヨハネスブルク証券取引所/ブルームバーグ/みずほ銀行)

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。ここに記載された内容は事前連絡なしに変更されることもあります。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。また、当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず無断で引用または複製することを禁じます。